

## 2017年度 第2回 道連理事会報告

8月3日第2回道連理事会が開催されました。北大生協の岸本理事が議長に選出され、麻田会長から、開会ご挨拶のあと、平専務から議決事項①17年度役員報酬の件、②大学生協連北海道事業連合との業務委託契約の件③諸団体会費追加の件④「九州北部大雨災害緊急支援募金」追加報告⑤次回理事会及び次々回理事会運営の件について提案され、議決されました。川原事務局長から、審議事項①LPガス問題の取り組み②子ども食堂の取り組みと今後③「まる元サミット」開催④ヒバクシャ国際署名推進⑤EPA交渉に関する道連会長所見について提案され、承認されました。平専務から報告事項①一般活動経過報告②17年度第1四半期決算報告、⑦16年北海道連続台風被害地支援募

金追加報告では16年1月以降の197万円の募金に關し、義援金の受付が終了しているため、被害の酷かった清水町・新得町・芽室町に復興防災に限定した寄付として贈呈したこと⑩北海道・行政関連報告⑪友好団体報告がありました。

また、川原事務局長からは③労福協「政策・制度改正要請」への参画④協同組合間協働の取り組み推進（北海道労金・JAグループ北海道）⑤堤 未果公開講演会取り組み報告⑥世代間シェアハウス問題の取り組み⑧ガン予防・検診推進活動⑨17年度消費者フォーラムは、12月2日(土)に開催される旨報告がありました。最後に、井形北海道・東北地連事務局長より第1回道連運営委員会の報告で理事会を終了しました。

## ◆ 堤未果公開講演会、約400名参加で大成功！ ◆

7月31日(月)ホテルポールスター札幌に於いて「堤未果」公開講演会は、多くの生協組合員さんと友好団体構成員及び個人参加者があり会場は熱気に包まれました。

今回の公開学習会は、今年2月の金子勝公開講演会に続く第2弾の取り組みで、JAグループ北海道と北海道生活協同組合連合会の共催で開催されました。後援団体は北海道・北海道新聞・北海道消費者協会・連合北海道・北海道労金・北海道被爆者協会・コープさっぽろ・労福協・北海道勤医協・大学生協北海道ブロック・生協9条の会・北海道平和フォーラム様など12団体のご支援を頂き大変多彩な取り組みとなりました。

講演は、大変熱のこもった内容で講演時間を20分もオーバーするものとなり、そのポイントは①新自由主義・グローバリズム・拝金主義の本質「今だけ・金だけ・自分だけ」②グローバリズムが世界の、農業・医療・金融・共済など各国の財産「宝」を食い物に③米国と

二国間協定を締結した、カナダ・メキシコ・韓国等は、多国籍企業の餌食に、特に韓国は農業の解体とJA共済の崩壊、金融機関の多国籍企業支配となっている④日本は、TPPに於ける譲歩がEPAや今後の協定交渉のベースになってしまった⑤家族農業が世界の主力⑥まともは、腐敗した金融資本主義の対抗軸としての、「おたがいさま」精神の「協同組合」生協と農協への期待が熱く語られました。

参加者から寄せられた感想も①とても中身の濃い話で勉強になった、もっと多くの組合員に聞いてもらいたかった(コープさっぽろ組合員理事) ②久しぶりに堤さんの講演を聴いたが、内容が進化し協同組合についても調査・勉強しているのが良く解りました。飛田会長も感銘していました(JA幹部) ③とても説得力のある、お話でよかった。個人として大変共鳴できるお話でした。協同組合の役割について改めて自覚しました(労金幹部) ④堤さんのことを知らなく初めて聞いたが、情報量がすごいと思った、一人ひとりが考えて行動することが求められていると思いました。それにしても道連さんの動員力はすごいですね。あんなに参加しているとは思わなかった(北海道職員) ⑤久しぶりに良い話を聞くことが出来ました。感謝しています(消費者協会幹部) など大変好評でした。

また、書籍販売では76冊の利用がありサイン会にも55名の参加がありました。来年度も道連らしく幅広い皆さんに喜んでいただける企画を計画します。



## 戦争の記憶を語り伝える会参加に思う 「戦場から帰って来た少年」 折田 謹吾

今回で14回目と歴史ある会に感銘したが、私自身も7年程前から戦争体験の語り部を行っています。体験は、一人一人異なりがあっても、皆同じ心の傷を背負っている事に変わりはありません。72年前は少年少女で、好奇心や冒険心が強く怖いもの知らずだったが、ソ連兵2人がマンドリン銃片手に我が家へ侵入してきた時は、さすがに怖かった。

家族皆両手を上に無抵抗状態。仮にそこで変な素振りをするものなら発砲される。

ソ連兵の目的はジェスチャーで腕時計を出せとか、マダムダワイ（女を出せ）、その場に母は居ず（事前



パネルやイラスト作成し  
体験談を語る折田さん

に察知し押入れ床下に身を隠していた為) 難を逃れた。旧満洲に侵攻もソ連軍が好き放題荒らしまくり、撤退し街に静けさが戻った

ので帰国出来ると思えば、今度は中国内戦勃発で2度目となる帰国の足止め。夜間外出禁止・日昼頭上銃弾飛び散る戦場内での暮らし4カ月程、なぜか恐怖感は、あまり無かった。

その訳は国府軍（蒋介石側）・八路軍（毛沢東軍）の双方で共通の訓示が出されていた。その内訳は「民間人・特に女・子供・年寄りには手を出すべからず」中東あたりでは難民が多く出ているのに比べて、双方の兵士は訓示を守ってくれた。当時中国では人口が5億人で、仮に1割の5千万人避難と言う事になればどうだったか。

僕達家族にしても、無事帰国出来たのも、そうした双方の兵士達にある意味感謝。大陸の人ありがとう、さようなら。

※ 折田 謹吾（81歳）氏のプロフィール  
終戦当時小学3年、9歳。旧満洲吉林省長春市に6年間在住、終戦と同時にソ連軍の侵攻で住んでいた街は一変、2度帰国の足止め・命拾いの戦場暮らし・4カ月博多港へ着岸する迄を、体験、目撃した事等記憶に基づきイラストを描いた物を作成。

## 北海道労働者共済生活協同組合「第64回通常総代会」 および全労済北海道本部「第8回代表者会議」が終了しました

2017年7月28日(金)、北海道労働者共済生活協同組合8回代表者会議」をホテルポールスター札幌にて開催しました。

今総代会（代表者会議）には総代（組合員代表者）130名中、書面議決を含む110名が出席し、総代会では「2016年度事業報告・決算報告」「2017年度事業計画・予算設定」「全労済総会の議案審議の件」など全9議案、代表者会議では「2016年度北海道本部統合事業経過報告・決算報告」「2017年度北海道本部統合事業計画・予算」など全4議案について、全体で承認されました。



山上理事長

山上理事長と助成団体の皆さま



また、今年度も社会貢献事業の一環としてNPO団体等の諸活動への助成金交付にともなう表彰式も実施し、各々の団体へ目録および記念の盾を贈呈しました。

2017年度は全労済創立60周年を迎えるとともに、Zetwork-60（全労済2014年度～2017年度中期経営政策）の最終年度となります。創立60周年に対する感謝の気持ちを伝えながら、Zetwork-60の総仕上げに向け共済推進活動の前進・拡大をはかり、全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現を引き続き目指していくことを全体で確認し、無事終了しました。